

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
I. 理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分にしてもらいたいことをそのように人にもしなさい」をふまえ、安全と生きがいの理念を掲げている。		地域との関わりの中で理念の実践が行われることを希望しています。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際に理念に沿ったケアの取り組みを検討して日々の援助につなげている。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月、利用者様の普段の生活や行事での様子などを担当職員全員が介護便りにして家族に伝えている。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	バザー、夏祭り、クリスマス会等の行事に地域の方々にお知らせし、参加していただいているので普段でも顔馴染みにしている。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会の子ども会の運動会に参加している。明第2西地区社協主催の地域フェアにも参加予定。		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民の見学を積極的に受け入れている。地域フェアでは介護相談窓口を設置して住民の相談に乗るように計画している。	○	どのような高齢者が暮らしているのか情報収集をしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では地域との交流が充分ではないと指摘を受けたので地域交流となるバザーや運動会等を行事に組み入れている。		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族旅行や外食の日が評価されたり、地域交流の更なる足がかりとして地域フェアを紹介された。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの職員とはアドバイスを受けた。情報収集等を行っているが、直接質の向上にはつながっていない。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ある利用者様の入所に当たり、実際成年後見制度の導入を利用した。		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長が県主催の研修で学んだことを施設の勉強会でスタッフ全員に周知徹底させている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って	ホーム長が入・退所の手続きを一切行っており、利用する立場になって対応している。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満等を家族に伝えられるように自由に電話がかけられたり、居室で面会をしていただいたりしている。また利用者様の希望については個別リハビリを取り入れているので、個別に映画鑑賞、外食、買物等を行っている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を送付するときに前月の利用者様の様子と事務の通信レターを添え、更に担当職員による介護たよりと行事等の写真を同封している。また事故、緊急連絡については都度電話で行っている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会や家族も同席していただく運営推進会議で意見を頂いている。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、全体ミーティング、フロアミーティングの場で職員の声を吸い上げている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態に応じて準遅や調理といったシフトを組み入れている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮	利用者様別に担当職員が決まっており、身の回りのお世話等ベストな介護を提供する体制になっている。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が年に最低一回は研修に参加することになっており、研修で学んだことは必ず施設の勉強会で発表するようになっている。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをし	同業の方を講師に招き研修を行ったり、他の施設で園芸の実習をおこなわせていただいたりした。	○	勉強会等の機会を作っていきたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に4回食事会を持ったり、利用者様と一緒にですが、一泊旅行でリフレッシュしてもらって		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	非常勤であっても金銭面では賞与や精動手当で勤務評価をしており、長く勤続すれば退職金も支給されるようになっている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様宅への訪問、当ホームの見学の実施、体験入所の実施等で利用者様の不安を取り除くようにしている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談、当ホームの見学、複数回の面談等でご家族の施設希望に応えている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人からお話を良く聞くと同時に、ご本人の状態レベルを見極めてから当ホームのサービスが適当であるかを決めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、他の利用者様とのコミュニケーション、体験入所という段階を経て最終的な結論を出していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご自宅で行っていた家事などは行っていただき、お一人お一人の出番を作っている。夏祭り、バザー、クリスマス会などでは演芸や手芸の出番を作っている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築	家族と共にケアカンファレンスを開いて話し合っています。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームへの来訪を多くしていただくような行事を考え、その案内を出す際には外食、外泊などのことも勧めている。		家族会で意見や要望を聞きたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室で髪染めやカットを行っていただいている。散歩などのボランティアとして利用者様のご近所の方に来ていただいている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	小人数で買物、外食などで外出し、利用者様同士が親しくなる機会を設定している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	迷惑行為で退所を余儀なくされた利用者様の入浴が在宅で出来ないことを聞き、半年間当ホームで入浴をお世話しました。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には担当職員が割り当てられて、日頃から個別ケアのひとつとしてご本人の行きたい所等の希望を聞きだすようにしている		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階でケアマネがセンター方式を使用して概ね把握している。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝・夕の申し送りで個々の状態を把握、確認し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、2名ずつの利用者様のご家族とカンファレンスを開いて現状報告、今後のケアの仕方、方向性について協議しあい、それを基にケアプランを作成している。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が著しい利用者様を優先にカンファレンスを開き、家族と面談するが、変更事項に関してはケアプランの変更前に実施している。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子については記録に残してあるが、気づき、工夫についてはケアプランの見直し云々に係らず、口頭で申し送り、実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的なカンファレンスやご家族の面会時に必ずご様子を伝えるように心がけており、その際にご家族からのご要望も伺っています。例えば受診に家族が連れて行けない場合はスタッフが付き添うなど。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーの民生委員の計らいでボランティアの紹介、子ども会の運動会への招待等をしていただいている。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医師の確認を取ってご本人の意向または施設側からの提案で訪問リハビリ等のサービスを受けていただいています。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーの一員として加わってもらい当園の運営に反映できる助言を頂いている。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療と訪問歯科を各々2回利用者様は受けている。更に緊急時には医師と看護師の往診を受けられる体制になっている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の数名は専門医にかかっており、受診に当たっては必要に応じて職員が付き添い医師から助言を得ている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問医療のあおぞら診療所の看護師とは普段から密接な関係を維持し、都度医療的な助言を得ている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて	入院時には必ず職員が付き添い、病院側に経過、ならびに情報を伝え、定期的な面会時には退院を含めた病状の経過を聞くようにし		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とのカンファレンスでは必ず終末期について話し合っており、家族の意思を確認している。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	連携医療先は終末期の対応に協力的な医療機関であるので支援体制はできており、内部の体制も人数増員と夜間対応について準備等考えている。	○	
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が認知症を早める要因ですので、ホームに入所の際、生活の様子を詳しく聞き、また馴染みのものを持ってきてもらっています。退所に関してはホームでの生活の情報を口頭、及びサマリーにして伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の尊厳に配慮してケアと記録を行っている。		利用者様を見守りながら記録を書くので記録用紙の管理を徹底していき
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様から一年にひとつ希望を叶えてあげようという企画を行っているので職員は絶えず利用者様に耳を向けるようにしている。また買物などでは必ずご本人に選んでいただくようにしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっていますが多くの利用者様はそれに対して不満を言われる方はいませんが、起床の時間や食事が遅れたり、レクリエーションに不参加であってもその方が不快にならないような対応を心がけている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容師が散髪に来ていますが、ご本人の希望により、馴染みのお店にご家族が連れて行く方もあれば、スタッフが付き添って行く方もいる。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回オリジナル料理日があり、その日は利用者様と鍋料理などのメニューを決め、買物に出掛け、調理を一緒におこないます。年に2回ほど回転寿司などの外食もある。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設は開設当初から全館禁酒禁煙となっていますが、それでも煙草好きの利用者様が入所されたとき、この方の嗜好を大切に毎日の散歩時に喫煙していただくように配慮しました。また旅行先でお酒も出してあげて喜んでいただきました。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄チェック表に記録し、尿失禁、便失禁が少なくなるように援助を行っている。		
57	23	入浴を楽しむことのできる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は定められた日に入っているが、時間帯は本人の希望に出来る限り添うように配慮している。入浴時に不穩になりやすい方には音楽を流したり、浴槽に花を浮かしたりしている。		夜間に入浴できるような日を設けたい。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり違うので、眠くなるまでリビングで過ごしていただく方もいます。冷える方には足浴をしたり、湯たんぽを入れています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った家事などのお手伝いやレクリエーションに参加していただいている。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を所持することで安心する方には持ち歩いていただき、計算ができる方には外出先で買物もしていただいている。また施設のバザーなどの行事ではお金をお渡しして自分で買物をしていただいている。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物を実施している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一回、利用者様のご希望を叶えてあげる企画があり、今まで競馬場、お芝居、映画等に出掛けた方がいます。また年に一度の泊旅行は家族も参加され、家族水入らずの時間を持っています。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして用を頼まれたりしている方もいます。クリスマスには家族宛にカードに一言添えてお出ししました。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	普段の様子をお伝えし、居室でもお話しができるように椅子をセッティングしてあげ、おやつのようなときは利用者様と同じものを召し上がって歓談していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、転倒の危険があっても2点柵をつける前に鈴をつけたり、ドアを開けて音がすると駆けつけるようにしている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のみ鍵をかけているが、目の前の道路で交通事故死があったり、すぐ近くに江戸川があったりする立地条件による。		できれば玄関の鍵をかけないようなケアに取り組んでいきたい。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングに見えない方には居室に行き見守りを行ったり、夜間は巡視を頻繁に行っている		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様のADLや問題行動の種類によって危険防止に努めている。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月の勉強会で危険予知訓練のテキスト等を使用して事故防止に備えている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練を定期的にはおこなっていないが、急変、事故発生の場合連絡、指示系統ができており対応については医療機関のマニュアルを活用している。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設で年1回の火災訓練を行っている。地域の協力は今後の課題です。	○	地域の火災訓練にも参加ができるようにしたい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	カンファレンスで現状の問題、将来の終末期にいたるまでの項目で家族と話し合っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをおこない、体調の悪い方は1日4回おこなっている。職員は朝夕の申し送りで情報を共有し、医療機関につながるようにしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の導入、変更等の説明は医療情報や申し送りノートにて対応している。薬の目的、副作用の説明書は個人ファイルに各々閉じている		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルト、芋、バナナなどおやつ工夫と水分補給、運動に努めている。水分チェック、生活チェック表にてを行っている。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分のできる方には声かけで歯磨きを誘導し、できない方には職員が援助している。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の「日々の記録」の中で食事量、水分量が把握できるようになっており、問題があればカバーできるようになっている。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス等の感染症に対しては閲覧できる資料を機嫌よく見せ、注意している		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理に関してはマニュアルがあってそれに沿って毎日おこなっている。食材は業者が前日配達するものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	閉鎖的にならないよう門扉はいつも開いており、花を植えたり明るい雰囲気作りをしている		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を取り入れた物やカレンダーを飾ったり、窓からは畑や土手が見え季節感を味わうことができる。		廊下に絵画を飾りたい
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室が活用されている		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には利用者様の馴染みの家具類を持ってきてもらい、また利用者様が大事にされている仏壇等も置いてもらっている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は居室の換気を行い、日中、夜間とも巡視、訪室でこまめに温度調節を行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、ノンステップフロアなどハードウェアは整備されている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどに分かりやすくはり紙を張ったりしている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスを利用してお茶を楽しんだり、園芸などで利用している。		

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない